

本校生徒が新聞に掲載されました

本校生徒の竹炭作りの様子が

7月24日の中日新聞に掲載されました。

竹炭かわいく情熱燃やす

松平高生手作り 地域に好評

消臭や湿気取りに効果がある竹炭作りに、豊田市の松平高校の生徒たちが取り組んでいる。地元の人に生い茂る竹を活用し、窯入れから販売まで手掛ける。多くの人に手に取ってもらえるよう華やかな包装も施し、地域の人たちに好評だ。

(河北彬光)

竹炭作りは、学校近くの山中に窯を持つ加藤五男さん(モモ)の指導を受けて九年前から続けている。十五日には窯入れ作業があり、生活情報科の一、三年生十二人が長さをそろえた竹の束を窯の中へ運び入れた。作業の締めくくりに、耐火レンガを積み上げて入り口をふさいでいく。

三年の加藤美咲さん(もは)は、一束十きほどある竹を窯の外で運ぶ作業と、窯の中に入って並べる作業を担った。すべてが手作業で

大変。お客さんに良い商品を提供したい」と竹炭作りは地元の里習の一環で始まった。



①加藤さん(もも)に教わりながら窯へ竹を入れる生徒たち。豊田市鍋田町で
②昨年の生徒が作った竹炭グッズ。
写真左のブーツ用や造花で飾った部屋用など商品の種類は多彩だ

竹は繁殖力が強く、人の手が入らなくなった山間部でどう処理するかが大きな課題になっており、加藤さんに指導を仰ぎ、活用法を模索してきた。

完成した竹炭は、部屋に置きやすいように造花で飾った竹かごや不織布に詰めたり、長さ四十一五十センチに切りそろえてブーツの消臭に使えるようにしたりと、若い発想で商品開発に工夫を凝らす。秋の文化祭などで五十、三百円で売り出し「かわいくて使いやすい」と人気。毎年ほぼ完売している。

ことしは八月下旬に窯から取り出し、九月の文化祭や、十月に地元の松平交流館で開かれる催しで販売する。

新たな商品開発にも取り組み、靴箱や押し入れ、車内など場所に合わせた商品も作るつもりだ。